

住宅と健康の関連について、医学と建築学からの報告！（その3）

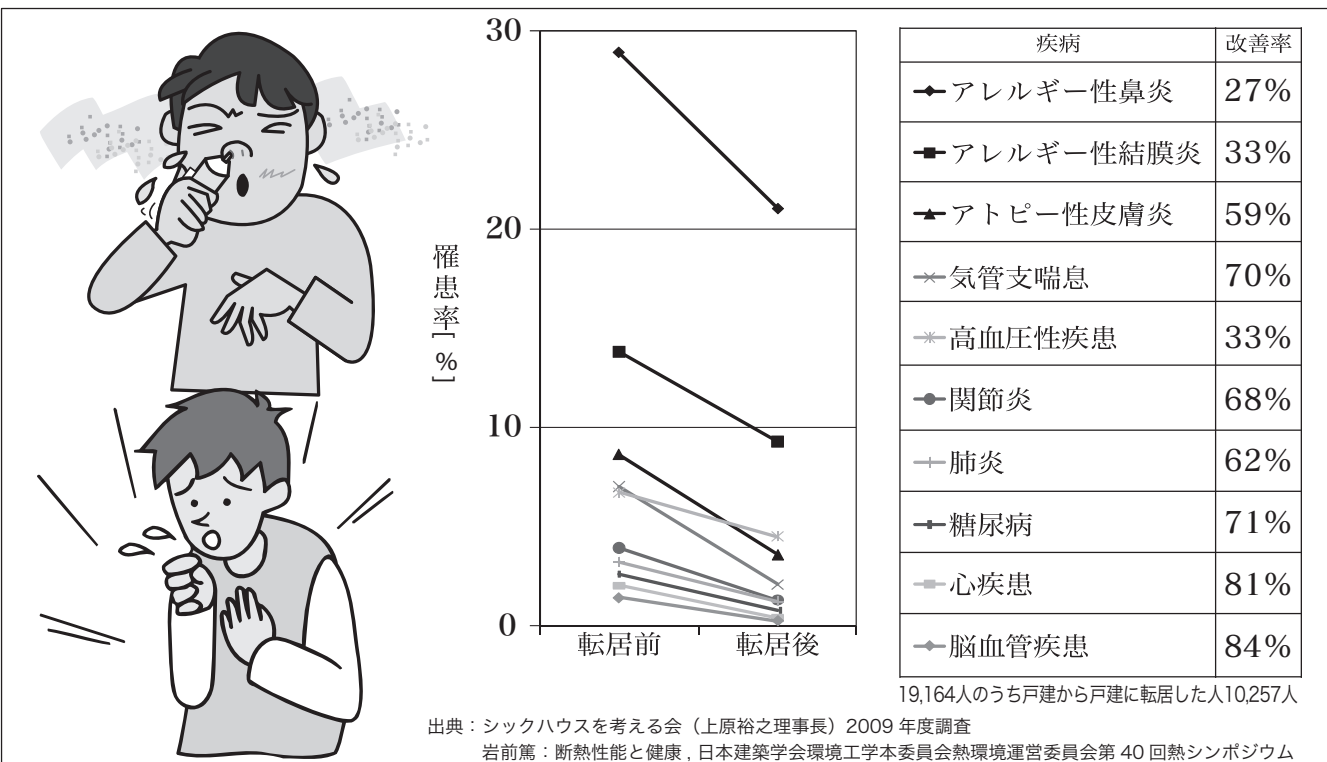
住宅性能基準と室温の関係、なぜ高性能住宅が必要なのかその理由！

室温の改善で糖尿病まで効果が実証。

断熱性能が悪い住宅から断熱性能の良い住宅へ転居すると様々な疾病の有病率が改善される、という結果が出ています。特に三大成人病の内、新生物（ガン）以外の脳血管疾患と心疾患の改善率は顕著に表れます。脳血管疾患の改善率は84%、心疾患の改善率は81%と非常に高い改善率が認められます。従来は、室内温度は関係ないと思われていた糖尿病の改善率も71%と糖尿病も暖かい温度環境では改善することが認められています。また、関節炎なども68%という高い改善率がみられます。肺炎や気管支喘息は、改善率が高いだろうと予測できますが、アトピー性皮膚炎なども59%という高い改善率がみられます。

これは暖かい室内環境が持続することで、有害な化学物質が排除されていくからと考えられます。有害化学物質のほとんどは揮発性物質ですから室温が暖まっている環境では、換気もスムーズに行われるものと

温熱環境の改善は、万病の元を断つ最良の薬です！



考えられています。そのためには温熱環境と共に換気装置もまた信頼のおける換気装置でなければならぬのは言うまでもありません。この様な結果から住宅の温熱環境の改善が多くの疾病から家族を守ってくれる効果があることが判ります。昔はあまり快適な住宅は、温度に対する耐性が無くなり子供が弱く育つ等と住宅の断熱を拒んできた建て主もいました。現在では、こうした地道な調査結果からも、断熱拒否住宅がいかにも不健康な住宅であったのがわかります。

住宅の暖かさは、私達の身体に熱を蓄積させて免疫効果を高めることも報告されています。温泉治療で身体を温めて免疫力を高めるのと同じ効果が、温熱環境に優れた住宅では認められると言つことです。

省エネや二酸化炭素の削減も重要ですが、住宅の温熱環境は家族の健康を守るためにも非常に重要な問題であることが分かります。